

「成功と失敗」

スクールカウンセラー 安達輝久

「失敗したらどうしよう。自信を無くすのでは。恥ずかしい…」など、何かに挑戦する前は誰でも不安が頭の中をよぎるものです。成功したときのことより失敗したときのことを想像してしまうからでしょうか。そのためせっかくの機会を逃してしまいます。

老年期に達したからか、今の私は何かを始めるときは「とりあえず、やってみよう。うまくいかなければ別の方法を。」という考えになっています。だから気楽に新しいことに取り組むことができます。

さて、若い人が「失敗したら」という不安を克服する方法はないものでしょうか。勇気が出る言葉があります。

「物事には成功と失敗があるのではない。

成功と次への学びがあるだけである。」

つまり「失敗」なんかそもそも無いのです。失敗とは「次を学ぶこと」に他なりません。挑戦しなければ恐れをいただくこともない代わりに学ぶこともありません。ある元プロ野球のコーチは「負けた試合こそ、とても重要です。次の試合につながるヒントがたくさんあります。負けた試合は学びの宝庫です。」と言っています。

学校やクラスに慣れてきた二学期は、皆さんが本気で挑戦するたくさんの方が待っています。進路決定、勉強、模試、学校行事、部活動、自分の興味や趣味の追求、人間関係の成長、今までにやり残していること…。

どれを選ぶかはあなた自身が決めることです。自分は他の人と比べてどんな人間だろうかとか、自分は何ができる人間なのかと思悩むことがあるでしょう。その答えは何を選んで実行するかということの中にあるのです。さあ、決めましょう。そして、学びましょう。



交流学習のようす

8月30日(金)南石垣支援学校に交流学習に行ってきました。3年生13名、2年生9名、1年生6名、計28名の参加でした。(本当は希望者がもう少し多かったのですが、受入可能人数が28名だったので、1年生には我慢してもらいました。)開閉会行事では、南石垣の生徒会役員が進行し、学校紹介も2年生全員でしてくれました。参加者は支援学校の生活について、初めて知ること多かったようです。その後、学年ごとに分かれてレクレーションをしました。3年生は風船バレーとカラオケをして、一緒に歌い踊って盛り上がりました。2年生は爆弾ゲームやイントロクイズで楽しみました。1年生はポッチャ大会で白熱しました。(教師チームが大人げなく優勝しました。)最後は、バスが校門を出るまで、みんなで手を振ってくれました。



12月中旬には翔青高校に南石垣支援の高等部3年生が来てくれます。その時はおもてなしをする側なので、準備なども楽しんでほしいと思います。

《アンケートから》

- ・ポッチャで「めんどくさいー」と言っている(南石垣の)人もいたけど、いざ始まるとすごく上手くてびっくりしました。(中略)最後は本当に帰りたくなくて、同じ班の〇〇さんにハイタッチしてもらいました。(1年生)
- ・先生たちが一人ひとりの子どもの個性を分かっているすごいなと思いました。(中略)生徒たちは輝いていて、みんな個性がある人ばかりだということを感じることができました。(2年生)
- ・感情の表現の仕方がとても豊かで、見ていて自分まで自然と笑顔になった。自分が進むべき道をまた一つ知ることができたと思う。自分が楽しむと同時にケガをしないように危なくないようにサポートしながら動いたので少し疲れた。でもその疲れより充実感の方が上回っていたので、今回参加してよかったなと思った。(3年生)

プチ心理学 「言葉の力」

あなたの発する言葉は、否定的、攻撃的ではありませんか?そういう言葉を使うと、もう一度同じような言葉を使うようなことが起きやすいのです。逆に「ついでに」「うれしい・楽しい」「ありがとう」「許します」などの肯定的な言葉を使うと、また言いたくなるような幸せなことがたくさん起きます。